

〔研究ノート〕

## モノの生と死—その序論

寛 ボルテール（倫理文化研究センター専門研究員）

### はじめに

昨 2015 年の全米書籍売上げ累計データが今年 1 月に発表され、ノンフィクション部門で 1 位となったのは、元々日本で出版された近藤麻理恵著『人生がときめく片づけの魔法』の英語版、『The Life-Changing Magic of Tidying Up: The Japanese Art of Decluttering and Organizing（直訳：人生を変える片づけの魔法—日本の整頓と整理の芸術）』というタイトルの本である。『人生がときめく片づけの魔法』（以下本文にて『人生〜』と表記）は日本で 2010 年末に出版され、4 年後の 2014 年末に初めて英語に翻訳し発行されたが、英語版は現在すでにオリジナルである日本語版の販売数を大きく超え、推定ではあるが 300 万部を突破したという。

また最近では英語のほかに、中国語や韓国語、ドイツ語、フランス語、イタリア語など少なくとも 10 カ国語に翻訳され、それらアメリカ以外の国においても売り上げがさらに伸びると期待されている。この本は日本でも 150 万部以上売れた大ベストセラーなので、私も読んだという方は多いかもしれない。出版社によるとこのようなミリオンセラーになったきっかけは、2011 年の東日本大震災であり、それは日本中が「片づけモード」になっていたからだという。

しかしアメリカで売れた直接の理由は大震災の影響ではないだろう。この日本的な家の片づけ方をテーマにした本がアメリカでも人気となった大きな理由は、モノに溢れているという現代人の生活にあると思われる。モノの多さに悩まされ、その整理や処分に困惑している家庭が多いことはいずこも同じようである。しかもいわゆる先進国ではそれが顕著である。

私たち現代人のほとんどは、まるでモノの山の中で日々の生活を送っているといえる。家具、衣類、靴、電化製品、食器、食品、書籍等々ありとあらゆるモノに囲まれ、モノに支配されながら暮らしている。そこで少しでもモノに支配された生き方から解放されるために、日本でもアメリカでも『人生〜』が教えてくれる“魔法”に救いを求めようとしている人が多いということであろう。そしてこれだけ話題になった本なので、海外でも多くのメディアで書籍紹介や書評、コラムなどで取り上げられており、その視点も好意的なものから批判的なものまで様々だ。